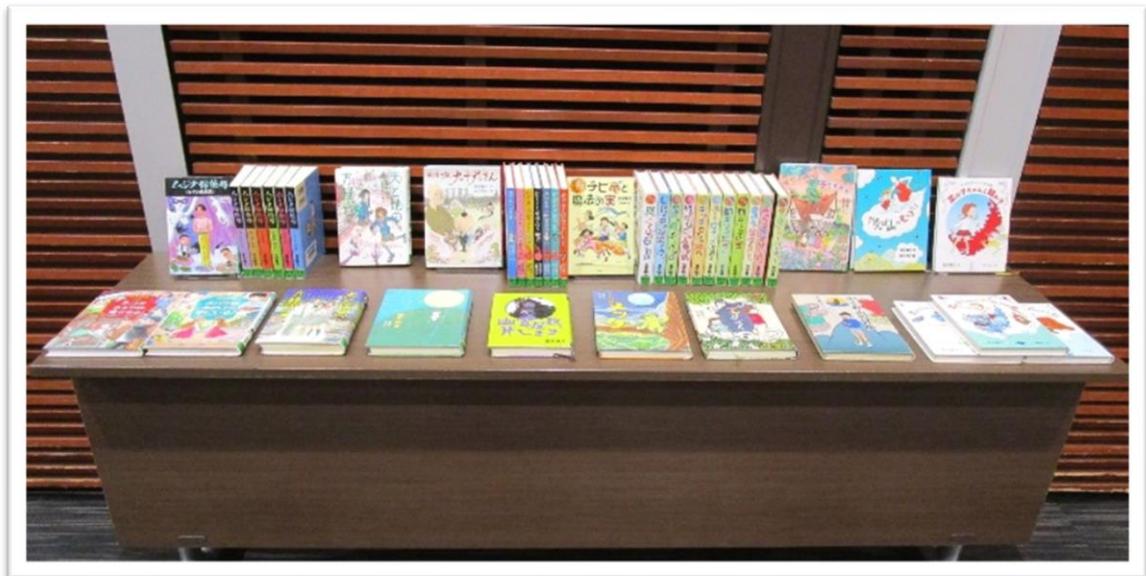


講演会は、小学生・中学生の参加もありました。

参加した人たちは皆、富安先生の楽しいお話に笑い転げていて、大人から子どもまで楽しめる講演会になりました。

富安先生は、25歳で作家デビューをされてから、150タイトル以上の本をかかれています。



会場内の展示コーナーには、絵本や読みもの、大人向けのエッセイなど、たくさん本が並べられました。

おはなしの書き方や絵本の作り方など、興味深い話が盛りだくさんの1時間半です。富安先生からは、「こどもの本の面白さ、難しさは、対象となる子どもが成長することです」と、大人の本と子どもの本との違いを教えてくださいました。



富安先生は、絵も描かれます。図書館がお願いをしたら、こんな素敵な色紙を描いてくださいました。

中央図書館 3 階じどうしつに展示しますので、ぜひ見にいらしてください。

先生の著作である『やまんば山のモッコたち』(福音館書店)は、月刊誌「子どもの館」(福音館書店)で連載していた作品をまとめたものです。単行本は降矢ななさんが挿絵を描いておられますが、連載当初は富安先生ご自身が描かれていました。

もちろん図書館には、当時の雑誌が保存されていますので、ぜひご覧ください。
『子どもの館』1981年5月号、1980年8月号、1982年9月号(福音館書店)

また、児童書ではありませんが、富安先生のエッセイ『童話作家のおかしな毎日』(偕成社)の挿絵も、富安先生ご本人が描かれています。

講演会ではこのエッセイの読み聞かせもしてくださり、会場は笑顔と笑い声に包まれました。



大好きな作家さんご本人と会えた子どもたちも、とてもとても楽しそうでした。

図書館では、今後の講演会開催の参考にするために、参加者アンケートを行っています。富安先生の講演会では、大人からも子どもからも、アンケート用紙の自由記述欄では足りないくらいたくさんの感想をいただきました。

「今日は成人した娘と参加しました。娘が幼稚園生の頃から、先生の絵本や児童書を、娘と一緒に読んで親しんできましたので、富安先生がどんな方なのか、とても楽しみにしていたので、今日のこの時間、本当に心豊かなひとときとなりました。」

「自分も子どもだったけれど、すっかり忘れてしまっています。子供のことを深く知りたいと思いました。子供って、特別におもしろいことを改めて気づかせていただきました。」

ひとつひとつのメッセージはすべて、富安先生にしっかりとお届けしたいと思います。